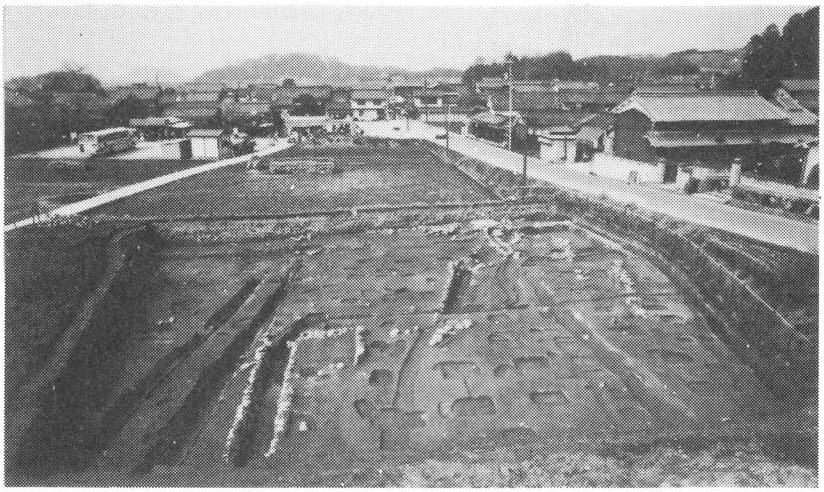
飛鳥寺東南部の調査

（昭和54年１月～昭和54年４月）

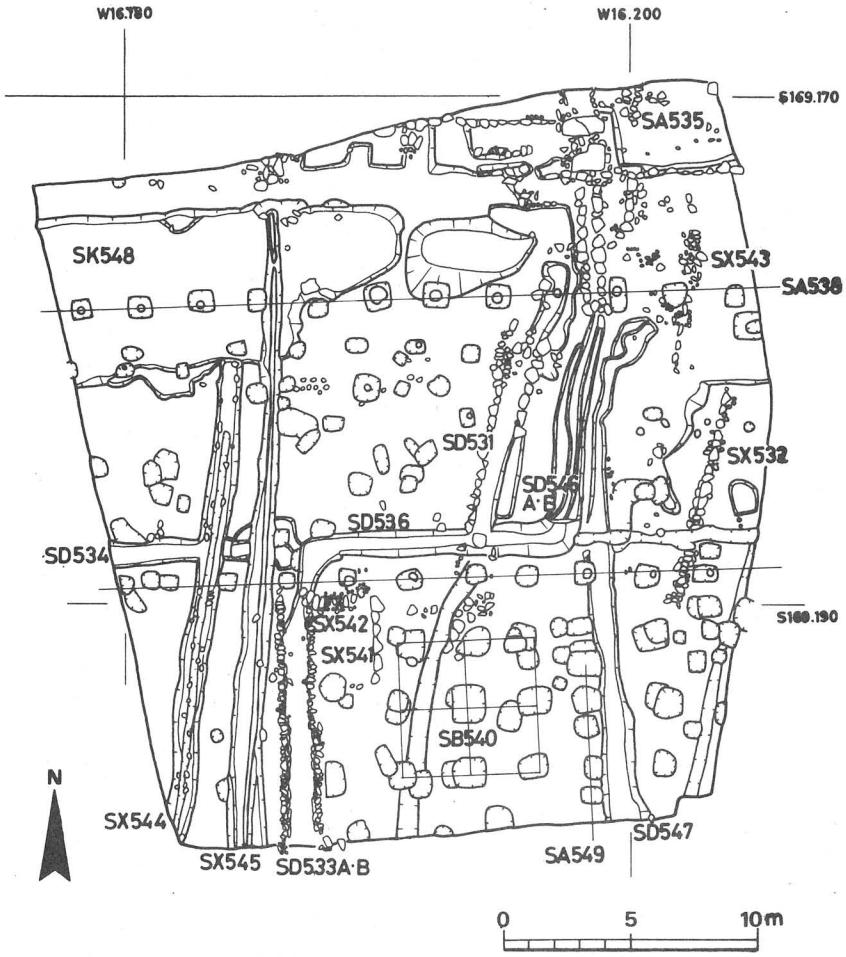
飛鳥寺東南部の調査については，中間報告ではあるが，すでに概要報告がある（『飛鳥藤原宮発掘調査概報』９，昭和54年）。その後検討した結果，各遺構の所属時期が確定し，また，遺構番号も決まったので，改めてここで一覧表にまとめておく。以下，昨年度の概報と若干異なる点とそれから派生する問題等も含め，少し補足しておくことにする。

築地ＳＡ535は，８世紀初頭に改造を受けていて，現状では，当初のものは残っていないが，飛鳥寺創建時の位置をそのまま踏襲した可能性が強い。また，すでに確認されている西門と西面築地を，伽藍中軸線で折り返すと，南面築地は発掘区内で曲り東面築地となることになるが，今回の調査では，さらに東へのびることが明らかとなった。その結果，東面回廊と東面築地との間には，かなりの空閑地ができることになり，そこに建物の存在が予想される。

最後に出土遺物について記しておく。出土した主な遺物は，土器・瓦である。土器には緑釉陶器片が１点あり，瓦には，軒丸瓦（130点），軒平瓦（８点），丸瓦，平瓦がある。瓦では飛鳥寺最古の桜花形軒丸瓦の多さが注目される。



調査地全景（南から）



飛鳥寺東南部調査遺構配置図（1：300）

検出遺構一覧表

Ⅰ期	SD 531	斜行石組溝	Ⅱ期	SX 541	南北玉石列
	SX 532	斜行石列		SX 542	盲暗渠状施設
	SD 533A	南北石組溝		SX 544	南北溝
	SD 534	東西溝		SX 545	木樋
	SX 543	斜行石列		SD 546A	南北溝
Ⅱ期	SD 533B	南北石組溝		SA 549	南北掘立柱塀　2間分
	SD 536	東西溝	Ⅲ期	SA 535	南面築地
	SA 538	東西掘立柱塀　11間分		SD 546B	南北溝
	SA 539	東西掘立柱塀　10間分		SD 547	南北溝
	SB 540	掘立柱建物　2間×2間	Ⅳ期	SK 548	土坑

期は7世紀前半・Ⅱ期は7世紀後半・Ⅲ期は7世紀末～8世紀初・Ⅳ期は11世紀